

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500015		
法人名	株式会社 アマランス		
事業所名	グループホーム あまらんす1F大地		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	令和7年 11月 15日	評価結果市町村受理日	令和7年 12月 29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022.kani=true&JigvosyoCd=0192500015-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎日本で一番美しい村の一つである赤井川村の小高い丘に位置し、四季折々の色彩豊かな景色を眺め、心穏やかにお過ごし頂ける。
◎リビングの大きな窓から眺望、広い庭があり、ゆったりとした生活ができる。
◎お花見ドライブ、さくらんぼ狩りなど季節に合わせた行事計画参加して頂いています。
◎季節の素材を取り入れた行事食を召し上がって頂いている。
◎村の文化祭に利用者様の手作りの作品を出品したり見に行くなど、積極的に参加している。
◎地域のサークルに入会する等、地域一員として生活できるよう努力している。
◎火災避難訓練、地震避難訓練、原子力防災訓練で、緊急非常時に備えている。
◎運営推進会議には、役場職員、消防署、社会福祉協議会、町内会会長、ご家族に参加して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム あまらんす」は、自然豊かな赤井川村にある2階建て2ユニットの事業所である。居間と食堂は明るく開放感のある造りで、大きな窓から四季の移り変わりを身近に感じる雄大な山々を望むことができる。ユニットごとに、利用者がゆっくり寛げるように食卓テーブルやソファの配置も工夫している。玄関や共用空間には、職員や利用者が制作した手作り作品や季節の装飾が綺麗に飾られている。運営推進会議は消防署長も参加し、「身体拘束禁止について」や「その人らしさを大切にしたいケアを目指して」「認知症の人にラクに伝わる言いかえフレーズ」など、毎回テーマを設けて資料を基に説明している。村の文化祭に利用者も出展して見学に出かけたり、敬老会やふれあい健康まつりに参加して地域交流を深めている。ケアマネジメンのト面では、毎月健康管理委員会でカンファレンスを行い、アセスメントシートに情報を蓄積しながらその方に応じた適切な介護計画を作成している。また、サービス内容にそって日々記録し、評価や介護計画の更新に活かしている。天候を見ながら日々散歩をしたり、季節に応じて花見やさくらんぼ狩り、ひまわり畑見学など積極的に外出して気分転換を図っている。管理者を中心に、全職員で各利用者に寄り添いながら、一人ひとりの生活の質の向上を目指して細やかな対応を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の人としての尊厳を大事にし、自分達が実践している介護と職員倫理規定を照らし合わせ、職員それぞれが意見を出し合い、理念を作り上げた。理念を意識するよう施設内数か所に掲げている。研修時には、皆で、その理念の見直しや利用者・仕事への想いを再確認し、日々の介護につなげている。	介護スタッフ理念の中に「皆が笑顔でいられる地域に根差したホームを目指します」という、地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。各職員は応接室や事務室、廊下などの掲示を見て確認し、理念を意識しながら仕事をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の道路の清掃、村の敬老会、社会福祉協議会企画のふれあい健康祭りにも参加し、村内の文化祭にも作品を出品し、文化祭見学时も感染予防対策をしながら家族、知人、地域の方との交流を深めている。これからも地元とのつながりを大切に都度協議し、感染予防対策をし交流できる場に参加していきたい。	感染症の流行により現在は事業所の行事で交流する機会は無いが、村に住んでいた利用者が敬老会に参加して地元の方々と交流したり、職員が地域行事のクリーンアップ作戦で清掃活動を行っている。利用者は、文化祭やふれあい健康まつりに出かけて地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、地域の方々に参加して頂き、認知症についての研修を行い、理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの近況報告、事故、ヒヤリハット、職員の入退職の状況等も報告し、役場職員、消防署、社会福祉協議会、町内会会長、ご家族に参加して頂き、地域の情報を得、よりよいグループホームとなるための貴重な意見を頂いている。事前に研修テーマを決め、お便りや請求書送付時に日程、質問等の窓口もお知らせし、議事録を家族に送付している。	利用者状況や行事、ヒヤリハットなどを報告し、研修として「緊急時の対応」や「認知症の中核症状と行動・心理症状」など、毎回テーマを設けて資料を基に説明している。議事録と資料は、全家族に送っている。年度初めに年間テーマを全家族に書面で周知しているが、参加できない家族からの意見や質問は寄せられていない。	毎回の会議案内にも研修テーマを記載して送付し、参加できない家族の質問や意見などを事前に聞き取り、会議に反映させるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2カ月に1度の運営推進会議に役場職員、消防署、社会福祉協議会の参加を得て、情報提供を受けている。出向いた際には、担当者に、空き室情報や事業所の実情を伝え、アドバイスを頂き、連携してより良い施設になれるよう取り組んでいる。	介護認定の更新書類や国勢調査の提出で役場に出向いたり、事業継続計画(BCP)の作成時に、村の災害対策について確認している。保護課の担当者や生活保護担当者について、定期的に情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の数箇所に身体拘束の禁止11項目を掲げて、身体拘束等適正化のための指針に基づき、委員会を設け、3カ月毎に委員会や研修時に周知や、説明、ケアについて常に利用者目線での問題意識を持ち話し合いながら、取り組んでいる。身体拘束は行っていない。契約時に身体拘束を行わない為に起こりうる事故等について家族に説明している。	マニュアルを整備し、「禁止の対象となる具体的な行為」を事業所内にも掲示している。3か月ごとに委員会を開催し、その後に勉強会も実施して委員会の内容を確認している。勉強会で具体的な禁止行為も再確認している。今後、委員会の議事録に、職員の確認欄を見やすく整備したいと考えている。玄関の鍵は夜間のみ施錠している。	

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設けて実態の把握、ケアカンファレンス、社内研修においても協議、虐待となる前の不適切ケアの段階で解決していけるよう常に問題意識を持つようになっている。虐待防止のための指針を作成してあります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族から相談を受け、小樽市社会福祉協議会に依頼しあんしんサービス事業支援を受けている方の支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書・契約書を詳しく説明し、理解・納得して契約頂けるよう努めている。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安・不満のないよう、納得が得られるよう連絡を密にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフが利用者の様子から察知し、不安な事や要望等を引き出すよう努めている。その意見を受けたスタッフはすぐに管理者に報告、対応する事を徹底している。	面会時や電話で利用者の様子を伝えて意見や要望を聞き取り、介護記録や連絡ノートに記録している。今年は、数年ぶりに家族会も実施している。3か月ごとに、事業所や個別の様子を書いた「あまらんす便り」を家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内研修や各委員会、面談等で意見をすくいあげ、できる限り反映させるよう努力している。	管理者は、毎月の会議や日々の業務の中で職員の意見や提案を聞き取っている。会議に参加できない職員の意見も事前に聞き、会議で検討することもある。統括本部長などの役職者が、年2回職員と面談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の得意分野を生かし、適材適所に配置し、家庭環境に合わせた労働時間の配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるよう、常日頃、職員の育成に努めている。社内研修を毎月開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間とのネットワークに参加している。赤井川村ケア推進会議に参加やグループホーム協会での意見交換の場に参加し、サービスの向上へつながるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネのみならず、全てのスタッフが、理念に沿った介護をしながら、情報収集をし、それらを共有し、チームケアにより、利用者が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも電話等による相談を受け付け対応している。又、管理者が、対応できない時はスタッフが引継ぎ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要となる社会資源を見極め、選定し、家族の了解を得られたら随時支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりのしぐさ、表情、会話の中から好きな事、得意な事を教えて頂きながら、できる事を見極め利用者の意思を確認しながら、日々の生活に生かせるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を把握し、利用者と家族の気持ちを尊重し、必要に応じて対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院・ドライブの際に少し遠回りをして、自分の住みなれた街等を通るようにしている。玄関ブース内での事前予約面会を実施し、家族、知人等との面会、電話のやり取りを支援している。	知人や友人が来訪することは少なくなったが、家族や親族が訪ねて来たり、法事に出席した利用者もいる。職員と一緒に地元のひまわり畑を見に行ったり、余市方面での花見やさくらんぼ狩りなど、馴染みの場所に積極的に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にスタッフも交わり会話をしたり、行事やドライブ等の席や配車にも配慮し、孤立せずに信頼関係が出来るような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、必要に応じて支援出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の要望や困りごとを伺い、ご本人の希望や訴えに親身になってお話を伺っている。言葉にできない利用者は普段の行動、表情などを記録から職員間で情報を共有している。健康管理委員会でも毎月利用者のカンファレンスもしている。	会話や仕草、表情などから思いや意向を把握している。アセスメントシートに趣味や嗜好を記入し、6か月ごとに更新している。今後は趣味や嗜好なども具体的に記録し、変化に応じて随時追記したいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談し、生活歴を把握し、また、日常会話の中からこれまでの様子を伺ったり、不明な点を家族に尋ねるなどして配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方を日誌やバイタルチェック表に記録し、重要な変化は連絡ノートに記録し、職員全員で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	過去の既往歴や、生活歴をご家族から情報を得ながら、利用者にとって、日常生活の何を支援すればスムーズに心地良く生活できるのかをカンファレンス等で常に話し合っている。支援経過表の項目欄余白に目標番号を記載し支援を行った際に目標番号に印をつけている。	毎月の会議で個々の状態を話し合い、計画作成担当者や利用者担当職員の評価を基に全職員で検討して3か月ごとに介護計画を作成している。今後は家族の意向を具体的に聞き取りながらサービス内容に反映させたいと考えている。介護計画を意識して日々支援経過に記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づき等は、スタッフの連絡ノート等で把握し、個別記録等にもれなく記帳、カンファレンス等で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夏祭りの開催は中止したが、9月に家族交流会を行い、誕生会、敬老会を家族と一緒に祝いしました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や村の行事に参加し、交流を深め楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望を出来るだけ尊重し、かかりつけ医と連携を取りながら支援している。受診内容を利用者ごとの受診記録、連絡帳に記載し看護師、職員間で情報を共有している。	全員が協力医の余市協会病院に通院しており、ほとんど事業所で支援している。本人の健康状態を看護師が記録し、毎回書面で医師に伝えている。医療情報は、連絡ノートや介護日誌、受診記録に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常生活の中で得た情報を看護師に伝え、協議し受診説明を作成し、主治医との連携を取り、受診出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、家族との連絡を密にし、早期退院に向けて努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に医療連携に関する基本指針や重度化した場合の対応における指針等の書類を説明し、同意を得ている。重度化している方の家族には、こまめに連絡を取り合い、随時、日常生活をより具体的に説明し、急変もあり得る事を納得して頂いている。重度化して医療が必要な場合は、スムーズに医療機関に移れるよう支援している。	利用開始時に「重度化対応に関する指針」にそって事業所での対応について説明している。経口摂取ができなくなった時や常時医療行為が必要になった時は対応が難しいことを伝えている。体調変化に応じて主治医、家族、事業所で方針を話し合い、医療施設などに移ることが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の救命講習に参加し、社内研修でも再確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を策定し、研修をしています。赤井川消防署の協力を得、合同の避難訓練を行い、近隣の方には、日頃から何かあれば、協力し合えるよう、相談している。	年3回、夜間の火災や地震を想定して避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力を得ている。避難訓練は法人間で協力しているが、地域との協力体制も定期的に確認している。救命講習を計画的に実施し、ケア別対応も話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、利用者への声かけなど、プライバシーを損ねるような事があった場合、スタッフ同士の言葉がけで、尊厳が保たれるように対応している。	接遇研修を行い、利用者への声かけは命令調にならないよう注意している。申し送り時に名前を部屋番号で伝え、記録類はバインダーに挟んで持ち運び、ファイル類も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら、ジェスチャー・スキンシップ等で伝え、なるべく自己決定して頂き、ストレスを感じさせないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常において日々の日課や行事等はあるが無理強いせず、時間において再度声かけする等工夫し、一人ひとりのペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理美容で整容している。行事参加や外出の際、身だしなみのお手伝いしている。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	決まっている献立の中で、カレー、麺、丼物、パンの日を設定し、食べやすい形態で提供している。ご自分で収穫したサクランボなども食事やおやつに召し上がって頂いている。楽しみの持てる食事になっている。	食材会社の献立を基に調理済みの副食が届き、事業所で主食や汁物を作っている。献立を中止し、週に3回利用者に好みを聞き、三食丼や焼きそば等を作っている。誕生日には主食を赤飯にしたり、好きなものを選んでテイクアウトをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量を記帳しており、スタッフはそれを見て、一人ひとりに合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じたケアに努めている。舌専用のブラシ、唾液で誤嚥する可能性のある利用者には口腔ウェットペーパーを使用し口臭、風邪対策等に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を常に確認し、タイミングを予測しながら、出来る限り、トイレで便座に座って頂き気持ちよく排泄し、洗浄できるよう支援している。	全員の排泄をチェックし、日中、座位保持が可能な利用者はトイレを使用し、職員2人で介助することもある。介助の時も自分でできる部分を声かけしている。利用開始当初はベッド上で交換していた方が、適切なケアの方法を検討し1か月で座位が可能となった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、排泄チェック表で確認し、予防に取り組んでいる。スタッフ皆で工夫し水分補給・食物繊維・ヨーグルトやバナナを取り入れた食事等で自然排便を促している。体質的に便秘の方には、医師と相談の上対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意思を尊重して、同性介助の意向に沿い、声掛けを工夫し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。湯上り後はご本人の好みに合わせてスポーツドリンク、コーヒー、炭酸飲料などで水分補給している。	月～土曜日が入浴日で、主に午後の時間帯に週2回の入浴を支援している。1番風呂の希望や、入浴を拒む方には声かけの工夫で入浴につなげている。2人介助もあるが、ほとんどの利用者は湯船に浸かり、職員と会話をして気持ちよく入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態により安眠休息できるよう、スタッフが声かけ等で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量について、薬局からの説明書により、理解し、飲んでいる薬が変更や休薬になった場合には、連絡ノートや受診記録により機敏に対応している。投薬マニュアルを作成し、職員全体が共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来ることは限られていますが、ご自分の役割として植物鉢に水やりを楽しまれている方やレクリエーションに花札やボールゲーム等のお好きなゲームを取り入れたり、お風呂上りや晩酌のビールや起床時のコーヒー等個々に楽しまれています。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前庭のブルーベリー狩り、ドライブでの桜の花見、さくらんぼ狩り、ひまわり畑とコスモス畑見学に出かけている。ドライブ等の外出の楽しみを多くしている。	天候を見て敷地内を散歩し、ブルーベリーを摘んで楽しむこともある。外出行事では、ドライブで花畑を見学したり、果物狩りをしている。村の行事に参加する等、外出の機会が多い。受診時にも車窓から桜の花や景色を眺めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて支援している。お金を持つ事で、安心される利用者には、少額の金額を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきが来て本人が返事を書きたいと希望の場合は、練習し、出す事を支援している。電話は本人の希望時にかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、大きな窓からの景色や壁掛け、置物などで四季を感じられる様にディスプレイを工夫している。また、懐メロなど流行っていたいた歌や音楽をかけて、懐かしんで頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している。	共用空間は清掃が行き届いて清潔に保たれており、トイレや浴室は車椅子の回転が十分にできる広さがある。居間の大きな窓から景色を全体に見渡すことができ、四季の移り変わりが楽しめる。文化祭に出品した作品の小さな飾り花を壁やテレビ台に置き、温かで家庭的な雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各空間を利用し、思い思いに過ごせるよう椅子、テーブルを置き、一人になれる空間や仲間との居場所等に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に使いなれた物を持って来て頂くようお願いし、本人の生活に一番合ったお部屋になるよう支援している。入居後に於いてもご本人の要望を家族に伝えて改善を試みている。	居室には造り付けの大型のクローゼットがある。室内には馴染みの家具やテレビ等が持ち込まれている。壁には家族の写真、プレゼントで貰った花束のドライフラワーや敬老会に職員が手作りしたメダル等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室を確認できるよう工夫し、お手洗いの目印を付け、混乱のないようにしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500015		
法人名	株式会社 アマランス		
事業所名	グループホーム あまらんす2F空		
所在地	余市郡赤井川村字赤井川409番地1		
自己評価作成日	令和7年 11月 15日	評価結果市町村受理日	令和7年 12月 29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action.kouhyou_detail.022_kani=true&JigvosyoCd=0192500015-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

◎日本で一番美しい村の一つである赤井川村の小高い丘に位置し、四季折々の色彩豊かな景色を眺め、心穏やかにお過ごし頂ける。
◎リビングの大きな窓から眺望、広い庭があり、ゆったりとした生活ができる。
◎お花見ドライブ、さくらんぼ狩りなど季節に合わせた行事計画参加して頂いています。
◎季節の素材を取り入れた行事食を召し上がって頂いている。
◎村の文化祭に利用者様の手作りの作品を出品したり見に行くなど、積極的に参加している。
◎地域のサークルに入会する等、地域一員として生活できるよう努力している。
◎火災避難訓練、地震避難訓練、原子力防災訓練で、緊急非常時に備えている。
◎運営推進会議には、役場職員、消防署、社会福祉協議会、町内会会長、ご家族に参加して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の人としての尊厳を大事にし、自分達が実践している介護と職員倫理規定を照らし合わせ、職員それぞれが意見を出し合い、理念を作り上げた。理念を意識するよう施設内数か所に掲げている。研修時には、皆で、その理念の見直しや利用者・仕事への想いを再確認し、日々の介護につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の道路の清掃、村の敬老会、社会福祉協議会企画のふれあい健康祭りにも参加し、村内の文化祭にも作品を出品し、文化祭見学时も感染予防対策をしながら家族、知人、地域の方との交流を深めている。これからも地元とのつながりを大切に都度協議し、感染予防対策をし交流できる場に参加していきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、地域の方々に参加して頂き、認知症についての研修を行い、理解を深めて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの近況報告、事故、ヒヤリハット、職員の入退職の状況等も報告し、役場職員、消防署、社会福祉協議会、町内会会長、ご家族に参加して頂き、地域の情報を得、よりよいグループホームとなるための貴重な意見を頂いている。事前に研修テーマを決め、お便りや請求書送付時に日程、質問等の窓口もお知らせし、議事録を家族に送付している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2カ月に1度の運営推進会議に役場職員、消防署、社会福祉協議会の参加を得て、情報提供を受けている。出向いた際には、担当者に、空き室情報や事業所の実情を伝え、アドバイスを頂き、連携してより良い施設になれるよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内の数箇所に身体拘束の禁止11項目を掲げて、身体拘束等適正化のための指針に基づき、委員会を設け、3カ月毎に委員会や研修時に周知や、説明、ケアについて常に利用者目線での問題意識を持ち話し合いながら、取り組んでいる。身体拘束は行っていない。契約時に身体拘束を行わない為に起こりうる事故等について家族に説明している。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設けて実態の把握、ケアカンファレンス、社内研修においても協議、虐待となる前の不適切ケアの段階で解決していけるよう常に問題意識を持つようになっている。虐待防止のための指針を作成してあります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族から相談を受け、小樽市社会福祉協議会に依頼しあんしんサービス事業支援を受けている方の支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書・契約書を詳しく説明し、理解・納得して契約頂けるよう努めている。また、解約の際も利用者の立場に立ち、不安・不満のないよう、納得が得られるよう連絡を密にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフが利用者の様子から察知し、不安な事や要望等を引き出すよう努めている。その意見を受けたスタッフはすぐに管理者に報告、対応する事を徹底している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内研修や各委員会、面談等で意見をすくいあげ、できる限り反映させるよう努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の得意分野を生かし、適材適所に配置し、家庭環境に合わせた労働時間の配慮をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部の研修を受けられるよう、常日頃、職員の育成に努めている。社内研修を毎月開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間とのネットワークに参加している。赤井川村ケア推進会議に参加やグループホーム協会での意見交換の場に参加し、サービスの向上へつながるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者やケアマネのみならず、全てのスタッフが、理念に沿った介護をしながら、情報収集をし、それらを共有し、チームケアにより、利用者が安心して生活できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも電話等による相談を受け付け対応している。又、管理者が、対応できない時はスタッフが引継ぎ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要となる社会資源を見極め、選定し、家族の了解を得られたら随時支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりのしぐさ、表情、会話の中から好きな事、得意な事を教えて頂きながら、できる事を見極め利用者の意思を確認しながら、日々の生活に生かせるよう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を把握し、利用者と家族の気持ちを尊重し、必要に応じて対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院・ドライブの際に少し遠回りをして、自分の住みなれた街等を通るようにしている。玄関ブース内での事前予約面会を実施し、家族、知人等との面会、電話のやり取りを支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中にスタッフも交わり会話をしたり、行事やドライブ等の席や配車にも配慮し、孤立せずに信頼関係が出来るような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後であっても、必要に応じて支援出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、ご本人の要望や困りごとを伺い、ご本人の希望や訴えに親身になってお話を伺っている。言葉にできない利用者は普段の行動、表情などを記録から職員間で情報を共有して。健康管理委員会でも毎月利用者のカンファレンスもしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談し、生活歴を把握し、また、日常会話の中からこれまでの様子を伺ったり、不明な点を家族に尋ねるなどして配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方を日誌やバイタルチェック表に記録し、重要な変化は連絡ノートに記録し、職員全員で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	過去の既往歴や、生活歴をご家族から情報を得ながら、利用者にとって、日常生活の何を支援すればスムーズに心地良く生活できるのかをカンファレンス等で常に話し合っている。支援経過表の項目欄余白に目標番号を記載し支援を行った際に目標番号に印をつけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づき等は、スタッフの連絡ノート等で把握し、個別記録等にもれなく記帳、カンファレンス等で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	夏祭りの開催は中止したが、9月に家族交流会を行い、誕生会、敬老会を家族と一緒に祝いしました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会や村の行事に参加し、交流を深め楽しむことが出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望を出来るだけ尊重し、かかりつけ医と連携を取りながら支援している。受診内容を利用者ごとの受診記録、連絡帳に記載し看護師、職員間で情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常生活の中で得た情報を看護師に伝え、協議し受診説明を作成し、主治医との連携を取り、受診出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、家族との連絡を密にし、早期退院に向けて努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用契約時に医療連携に関する基本指針や重度化した場合の対応における指針等の書類を説明し、同意を得ている。重度化している方の家族には、こまめに連絡を取り合い、随時、日常生活をより具体的に説明し、急変もあり得る事を納得して頂いている。重度化して医療が必要な場合は、スムーズに医療機関に移れるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の救命講習に参加し、社内研修でも再確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を策定し、研修をしています。赤井川消防署の協力を得、合同の避難訓練を行い、近隣の方には、日頃から何かあれば、協力し合えるよう、相談している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で、利用者への声かけなど、プライバシーを損ねるような事があった場合、スタッフ同士の言葉がけで、尊厳が保たれるように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	耳の遠い方や理解が難しい方には、顔の表情を見ながら、ジェスチャー・スキンシップ等で伝え、なるべく自己決定して頂き、ストレスを感じさせないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	日常において日々の日課や行事等はあるが無理強いせず、時間において再度声かけする等工夫し、一人ひとりのペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の理美容で整容している。行事参加や外出の際、身だしなみのお手伝いしている。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まっている献立の中で、カレー、麺、丼物、パンの日を設定し、食べやすい形態で提供している。ご自分で収穫したサクランボなども食事やおやつに召し上がって頂いている。楽しみの持てる食事になっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量を記帳しており、スタッフはそれを見て、一人ひとりに合わせて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者に応じたケアに努めている。舌専用のブラシ、唾液で誤嚥する可能性のある利用者には口腔ウェットペーパーを使用し口臭、風邪対策等に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を常に確認し、タイミングを予測しながら、出来る限り、トイレで便座に座って頂き気持ちよく排泄し、洗浄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、排泄チェック表で確認し、予防に取り組んでいる。スタッフ皆で工夫し水分補給・食物繊維・ヨーグルトやバナナを取り入れた食事等で自然排便を促している。体質的に便秘の方には、医師と相談の上対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の意思を尊重して、同性介助の意向に沿い、声掛けを工夫し、気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。湯上り後はご本人の好みに合わせてスポーツドリンク、コーヒー、炭酸飲料などで水分補給している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態により安眠休息できるよう、スタッフが声かけ等で対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量について、薬局からの説明書により、理解し、飲んでいる薬が変更や休業になった場合には、連絡ノートや受診記録により機敏に対応している。投薬マニュアルを作成し、職員全体が共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、出来ることは限られていますが、ご自分の役割として植物鉢に水やりを楽しまれている方やレクリエーションに花札やボードゲーム等のお好きなゲームを取り入れたり、お風呂上りや晩酌のビールや起床時のコーヒー等個々に楽しまれています。		

グループホーム あまらんす

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前庭のブルーベリー狩り、ドライブでの桜の花見、さくらんぼ狩り、ひまわり畑とコスモス畑見学に出かけている。ドライブ等の外出の楽しみを多くしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて支援している。お金を持つ事で、安心される利用者には、少額の金額を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきが来て本人が返事を書きたいと希望の場合は、練習し、出す事を支援している。電話は本人の希望時にかけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、大きな窓からの景色や壁掛け、置物などで四季を感じられる様にディスプレイを工夫している。また、懐メロなど流行っていた歌や音楽をかけて、懐かしんで頂き、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各空間を利用し、思い思いに過ごせるよう椅子、テーブルを置き、一人になれる空間や仲間との居場所等に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する際に使いたれた物を持って来て頂くようお伝えし、本人の生活に一番合ったお部屋になるよう支援している。入居後に於いてもご本人の要望を家族に伝えて改善を試みている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室を確認できるよう工夫し、お手洗いの目印を付け、混乱のないようにしている。		